

6月も終わり

毎年6月30日になると、なんだか「時の流れ」に思いを馳せる。1年の半分か過ぎ、ハーフタイムもなく後半戦に突入する。現役の頃は、4月からの新学期の真っ只中で、そんな感慨にふけることはなかったが。

退職して4年3ヶ月。写真は退職の日に、6階研究室ベランダから撮った桜。久しぶりに当時、2014年の手帳を手にした。今も同じだが、1日の「予定」と「行動」を記してある。退職直後は自宅に閉じこもり、悶々と読書ざんまいの日々だった。連休明け以降は、名古屋大中央図書館に朝一番から通うようになり、生活に「リズム」が出てきた。



手帳には悲しいことも書かれている。5月22日、同僚だった石川洋明さんの奥さんの告別式に参列。それから6週間後には、石川さんの告別式があり、前日のお通夜に続いて出かけた。



4年前の今日、6月30日の早朝、石川さんは亡くなった。前週27日午前には講義していたという。その後、倒れて入院したと聞いて、お見舞いに行こうと思っていた矢先だった。



そんなわけで、6月30日近くになると、石川さんのことを思い起こす。石川さんは2月22日の私の「最終講義」に寒いなか参加してくれた。講義のあとで、卒業生らに囲まれて笑顔を見せる石川さん。石川さんについては10数本レポートを書き、「追悼集」にも1年後の6月30日に長めの寄稿をした。「追悼集」を待ちわびている。

手帳を見ていて、4年前の5月24～25日に福島大で開催された日本地方財政学会に参加したことを思い出した。名古屋を6時41分発のぞみに乗り、11時近くに福島大に着いたと記してある。初めての福島であり、夜と早朝は街歩きをした。まだ原発事故の影響が感じられた。

それから4年。来月下旬に福島大で開催される日本環境会議などの大会に、できれば行きたいと考えている。原発事故と裁判、福島の地域再生を学び、数日前に行った福島第一原発で考えたことを、自分なりに整理するために。

昨年末に名古屋を引っ越した。大阪暮らしも7ヶ月近くが過ぎた。生活にも慣れて、調査研究などペースが戻ってきた。退職後は引っ込みがちだったが、だんだんと積極的になってきた。それも大阪のせいだろうか。「大阪都構想=大阪市つぶし」「カジノ万博」など、黙ってはおれないことが多いためでもある。

この調子で、2018年「後半戦」にのぞんでいきたい。

(2018年6月30日)